



くらら利用者協議会 第2回研修会

子ども食堂でつくるあたたかい地域～栃木ではじめてみよう～

1回目の研修を受け、身近な地域の「居場所」としての子ども食堂を立ち上げてみたいという機運が高まっています。そこで、誰が利用できるの？どうやって運営するの？みんなが思う疑問について考え、一緒にあたたかい栃木市（地域）をつくりましょう！

日時 令和3年10月30日（土）15：00～17：00

参加方法 会場 〈キョクトウとちぎ蔵の街楽習館〉15名程度
オンライン 〈Zoom〉10名程度

対象 栃木市内在住・在勤で、
子ども食堂の開設やお手伝いに興味がある人

参加費 無料

内容 栃木市内で子ども食堂を運営することを想定し、鹿沼市内で子ども食堂を開く
ネットワークの皆さんから実践的なノウハウを学びます。

申込方法 お名前・所属・連絡先・参加方法および講師への質問を添えて、
電話・FAX・メール、HPの申込フォームよりお申込みください。

申込締切 10月23日（土）

申込先 とちぎ市民活動推進センターくらら TEL 0282-20-7131 FAX 0282-20-7132

E-mail kurara-tochigi@cc9.ne.jp

主催 くらら利用者協議会



講師 加藤美智子さん
子ども食堂ネットワーク
かめま元事務局長

くらら
スタッフの
コーナー

副センター長 なみちゃんコラム

人をタテにもヨコにも割ること
のない、地域の居場所づくり

くららのSNS



Facebook



Twitter

子ども食堂でつくるあたたかい地域～鹿沼での取り組み～

子ども食堂ネットワークかめま元事務局長の加藤美智子さんを講師としてお招きし、くらは利用者協議会の研修会を行いました。前半は鹿沼市内の各子ども食堂の取り組みやネットワークづくり、運営する中での課題についてお話いただき、後半は子ども食堂に興味・関心がある参加者同士で話し合いをしました。

親の働き方や社会環境の変化で家族一人ひとりの孤食が年々増加傾向にあり、子どもたちには賑やかな食を囲む環境が必要です。そこで、地域の皆様と一緒に子どもたちの地域の居場所として子ども食堂をつくっています。コロナ禍の現在、みんなでわいわいとすることはできませんが、お弁当を配達するなどの対応をしています。子ども食堂の目指すところは、子どもと大人の癒しの空間、食育の提案、地域のより所、学習支援です。ただ、本当に良いのは異年齢の大人と子どもがごちゃごちゃすることです。今はコロナなので、ご



ちごちゃできないのですが、生きていくのに大変な若者とかちょっと疲れたパパママがやってきてご飯を食べて帰るとか、ずっと散歩だけをしているお年寄りの楽しみになっています。コロナだから何もできないなんて事ではなく、いろいろ考えて知恵をふり絞ってやっています。今後の課題は、食材を切らさないための農家・JA・社協などの連携強化、スタッフの確保、地域の民生委員児童委員との連携、活動支援窓口の設置、本当に支援を必要としている家庭への支援です。子ども食堂とは言いますが、お年寄り子どもと合わせると本当に元気になります。お年寄りだけの会よりも子どもが介在すると、とてもいい感じになります。そんなことができるのが子ども食堂の良い所です。このような居場所は、昭和の隣近所におばちゃんおじちゃんがいて、夕飯をよばれてから帰るといったイメージに近いです。

大出の声 子ども食堂は名前こそ「子ども」を含んでいますが、そこは子どもだけの居場所ではなく、地域みんなの居場所として求められているのだと感じました。誰でも気楽に来ることができて、少し休める、定期的な楽しみになる、そしてみんなとおいしいご飯が食べられる居場所。そのような居場所を求めている人たちは栃木市にも沢山いると思います。今回の参加者の中にも子ども食堂について熱い想いを抱いている方が沢山いらっしゃいました。講座がきっかけで仲間を作り、栃木市にも鹿沼市のような子ども食堂のネットワークができるといいなと思います。

参加者の声 地域で、みんなで、これからの子ども達のことを真剣に考え、関わり、育てていく…「ぜひ栃木市でも、勇気をもって始めて欲しい。『始めるよ』と言えばいい。」加藤さんのアツいおもしろい話が伝わってきた 2 時間でした／食を軸とするいろいろな人とつながれると知った／自分一人でやろうとするのではなく、いろいろな人を巻き込んで始めるのがよいと思った。

助成金情報

公益財団法人キリン福祉財団

キリン・地域のちから応援事業

障害があってもなくても、高齢者でも子どもでも、日本人でも外国人でも、共に理解し、支え合う共生社会の実現を願い、障害児・者、高齢者、子どもなどの福祉向上に関わる団体に助成します。

助成額：上限 30 万円（総額 4,700 万円）

応募締切：令和 3 年 10 月 31 日（日）

問合せ：公益財団法人キリン福祉財団 事務局

TEL 03-6837-7013 FAX 03-5343-1093

メール fukushizaidan@kirin.co.jp



中央労働金庫

中央ろうきん助成制度“カナエルチカラ”

誰もが生きるたのしみと、働くよろこびを享受できる地域社会の創造に向けた事業を応援します。

助成額：上限 50 万円（1、2 年目）

100 万円（3 年目）

対象団体：民間の非営利団体で法人格を有すること

応募締切：令和 3 年 10 月 31 日（日）

問合せ：中央労働金庫 総合企画部（CSR）

TEL 03-3293-2048

メール npo@chuo-rokin.or.jp



登録団体からのお知らせ



蔵の街うたごえ実行委員会

第 2 回蔵の街うたごえ喫茶 in つがの里

日時：令和 3 年 10 月 10 日（日）13：00～14：00（12：00 開場）

会場：つがの里 野外ステージ（栃木市都賀町臼久保 325）

参加費：無料（雨天の際は中止）

問合せ：蔵の街うたごえ実行委員会

TEL 0282-24-5868（岩川） 0282-24-1954（臼井）



とちぎの障がい福祉を明るくする実行委員会

障がい者福祉を変える講演会『障がい福祉と支援とは』

制度が変わっていく中、利用者に対する支援は誰のための支援？支援の本来の意味ってなんだろう？

日時：令和 3 年 10 月 31 日（日）13：00～15：00（12：50 開場）

会場：わかさアリーナ 栃木県宇都宮市若草 1-10-6

プログラム：13：00 ミニスポーツ開催 みんなで遊ぼう

13：30 開会

第 1 部 菊池月香氏による講演『障がい福祉と支援とは』

第 2 部 まとめ・意見交換会

15：00 閉会

*YouTube 配信 チャンネル「特定非営利活動法人 障がい者の一人暮らしを考える会」

5 年ぶりに開く「にじいろまつり」が同時開催 10：00～16：00

問合せ：とちぎの障がい福祉を明るくする実行委員会 メール kappa1@cc9.ne.jp

清水登之顕彰会

FM くらら出演情報

栃木市のコミュニティラジオ、FM くらら 85.7、聴いていますか？

お持ちのラジオの周波数を FM85.7 に合わせてみてください。FM くららの番組

『とち介プロデュースの HAPPY TOWN・輝く栃木人』にくららの登録団体が出演します。

放送予定日時：令和 3 年 10 月 5 日（火）11：00～11：35

出演団体：清水登之顕彰会 志鳥正樹さん 志鳥桂子さん

ぜひお聴きください。

人をタテにもヨコにも割ることのない、地域の居場所づくり

社会活動家である湯浅誠さんの著書『つながり続ける こども食堂』には、全国に広がっている子ども食堂の活動について、それぞれの場で生まれているエピソードを織り交ぜながら紹介されています。湯浅さんが理事長を務める NPO 法人全国こども食堂支援センター・むすびえの調査によると、子ども食堂は全国に少なくとも 4,960 か所（2020 年 12 月時点）あります。1 年で 1,200 か所も増え、4 年で 16 倍にまでなるそうです。

子ども食堂と聞くと、子どもの貧困対策のためという福祉的なイメージが先行しがちですが（実は私もそうでした）、湯浅さんは「人をタテにもヨコにも割らない場所」という包括的な居場所であり、「子どもを中心とした多世代交流の地域拠点」だと説明しています。著書で紹介されている子ども食堂の運営者は、誰でも来られるという意味では「だれでも食堂」ですが、「子どものため」だとわかるほうがみんなの力の総量が増すと感じて、「子ども食堂」を名乗っていると話していました。

私たちの生活は、様々な制度と行政サービスによって支えられています。ですが、効率的にサービスを供給するためには、対象となる人を年齢・属性・所得などで割り、制度の枠組みに当てはめることで社会的な「要支援者」であるかどうかを決めていく必要があります。社会の無縁化が進むにつれて、生活課題はますます複雑化しています。そのすべてを制度と行政サービスで支えることだけを求めてしまえば、同じ地域で生活する一人ひとりが、年齢・属性・所得などでタテ・ヨコに（心までも）細かく割られ、高齢者だけの、障がい者だけの、ひとり親だけの、不登校の家族だけのというように、それぞれの生きられる世界が狭くなってしまふとともに、様々な諦めによる生きづらさと、新たな偏見や分断を生むことになるのではないのでしょうか。

あなたは要支援者ですか？と問われることもなく、誰もが「集いやすさ」を感じられ、足を運べる居場所として。子どもを真ん中に置くことで、地域の人と人との縁を紡ぎ、頼り合える関係を築いていける居場所として。食材を提供してくれる人、食事を作ってくれる人、勉強を教えてくれる人、いろんな体験をくれる人、みんなのあたたかい気持ちを感じることができて、困りごとにも相談できる親子の頼れる居場所として。子ども食堂の活動は、このコロナ禍でも広がり続けています。栃木市にも広げていきませんか？



湯浅誠『つながり続ける こども食堂』（中央公論新社、2021 年）

くらの事務室には図書コーナーがあります。地域づくりや市民活動に関する図書がたくさんあります。ますます充実させていきますので、ぜひご活用ください☆

とちぎ市民活動推進センターくらはとは

ボランティア、NPO、社会貢献活動などの市民活動を推進する拠点です。栃木市をよりよくしようと、さまざまな分野で活動している市民の皆さんの意見交換や交流、情報収集・発信の場として活用されています。



開館時間 月～土 10:00～21:00 日・祝 10:00～17:00

休館日 水曜日・年末年始

〒328-0016 栃木県栃木市入舟町 6-8 キョクトウとちぎ蔵の街楽習館内

TEL 0282-20-7131 FAX 0282-20-7132

E-mail kurara-tochigi@cc9.ne.jp

ホームページ <http://www.kurara-tochigi.org>



※くらはは、NPO 法人ハイジが栃木市の委託を受けて管理運営しています。

編集後記

夏が終わりだんだん秋らしくなってきました。涼しくなってきたので、ご近所を散歩してみるのもいいですね。いつも通らない道を歩いてみたり、気になっていた場所やお店に足をのばしてみると新たな発見があるかもしれません。最近くらはではインスタグラムをはじめました。ぜひチェックしてみてくださいね。（大塚）